

解体事業者が挑む、ゼロからの DX

インタビューにご協力頂いた方

有限会社丸富産業 代表 富吉 亮博 社長、 総務・経理担当 富吉 亜友 様

佐賀県では、県内企業に対する DX の取り組みの一環として、DX アクセラレーターとして伴走することで、経営課題の整理やその解決への取組の企画立案を支援しており、最終的には、企業自らが自走して DX を進めることができるようになることを目指しています。
今回は、有限会社丸富産業の取り組みについて、代表の富吉様と、総務・経理ご担当の亜友様にインタビューしました。

1. DX を進める理由

はじめに、貴社の事業概要を教えてください。

アクセラレーター



富吉社長



丸富産業は、主に建造物の解体工事全般を行う会社です。ビルなどの大型物件から木造家屋まで、幅広く対応しています。

富吉様をご自身で創業された会社だと伺いました。

DX アクセラレーター



富吉社長



その通りです。解体業で働くなかで、いつか自分の会社を持ちたいと思っていました。そして 2003 年、「不景気だからやめた方がいい」と周囲には反対されましたが、「今は底で、これ以上景気は悪くならないはずだ」と考え、丸富産業を立ち上げたのです。今年で創業 22 年を迎え、従業員は 15 名ほどとなります。



DX 伴走支援事業に参加を決めた経緯をお聞かせください。



DX アクセラレーター

富吉社長



創業期から 20 年間、経理など事務周りを一手に引き受けてくれていた妹が退職することになり、業務を引き継ぐことになりました。それまで見積書や発注書など、業務に必要なものは Excel 運用がほとんどでした。日報に至っては手書きが中心で、読み解くのに時間がかかっていたのです。そこでこのタイミングで属人化を解消し、同時に業務を効率化すべく、DX に挑戦してみることにしました。

早速、新たな事務担当者が「解体くん」という解体工事・原価管理アプリを提案してくれました。かなり効率化が期待できそうだと導入を決定。しかし、なかなか活用がうまく進まず、結局は Excel 運用を続けていたのです。このままでは、いつまでたっても DX が進展しないと思い、本事業に参加を決めました。

ちょうど、DX化を進めようとしていたタイミングだったんですね。
Excel運用に、具体的にどのような課題を感じていたのでしょうか。



DX アクセラレーター

亜友様



Excel の場合、入力後に保存せず、大事なデータが消えてしまうことがありました。そして基本的に担当者が1人で管理していたため、欠勤してしまった場合、他の社員では内容を確認できず、業務が停滞してしまうことがあったのです。

新しいツールを入れたものの、なぜ活用が進まなかったのでしょうか。



DX アクセラレーター

富吉社長



新しいツールを導入すれば自動的にすべてが解決するわけではなく、使いこなせるようになるまでには時間も手間もかかります。それに、社内にDXの知見を持っている人はおらず、何から手を付ければいいのか整理するのも大変でした。早く進めたいけれど、多忙な中で元請けから「今週中に見積書が欲しい」と言われたら、どうしても慣れ親しんだExcelに手が伸びてしまっていました。それが、「解体くん」がなかなか浸透していなかった理由です。

2. DX 伴走支援の内容

DX 伴走支援事業の具体的な内容について教えてください。



DX アクセラレーター

富吉社長



「解体くん」を導入したものの、具体的に何ができるのかわからない状況のなか、専門家の方に伴走支援をいただくことになりました。まずは、それまで Excel で管理していた一連の業務をひとつずつ洗い出し、それぞれが「解体くん」アプリのどの機能に該当するのか、一緒に紐解き、状況を整理していただきました。

また、専門家の方には DX の知見を授けていただいただけではなく、気持ちの持ち方の面でも助けていただきました。それまでは焦りもあってネガティブになっていましたが、専門家の方に「慣れたら本当に楽になるから、一步一步頑張りましょう」と声を掛けていただき、モチベーションが上がりました。



急いで進めるのではなく、無理なく DX 化に向けて進んでいったのですね。まずは、どの業務からツールの活用を始めたのですか？



DX アクセラレーター

富吉社長



まずは、見積書の作成からスタートしています。代表として、「やる」と決めた以上は社員を引っ張っていかねばなりませんから、まずは私が積極的に触れて、使いこなせるようになろうと決めました。



社長が率先して DX を進める姿は、きっと社内にも伝わっていると思います。実際に、本腰を入れて「解体くん」を使い始めたことで、どのような効果を感じていますか？



DX アクセラレーター

富吉社長



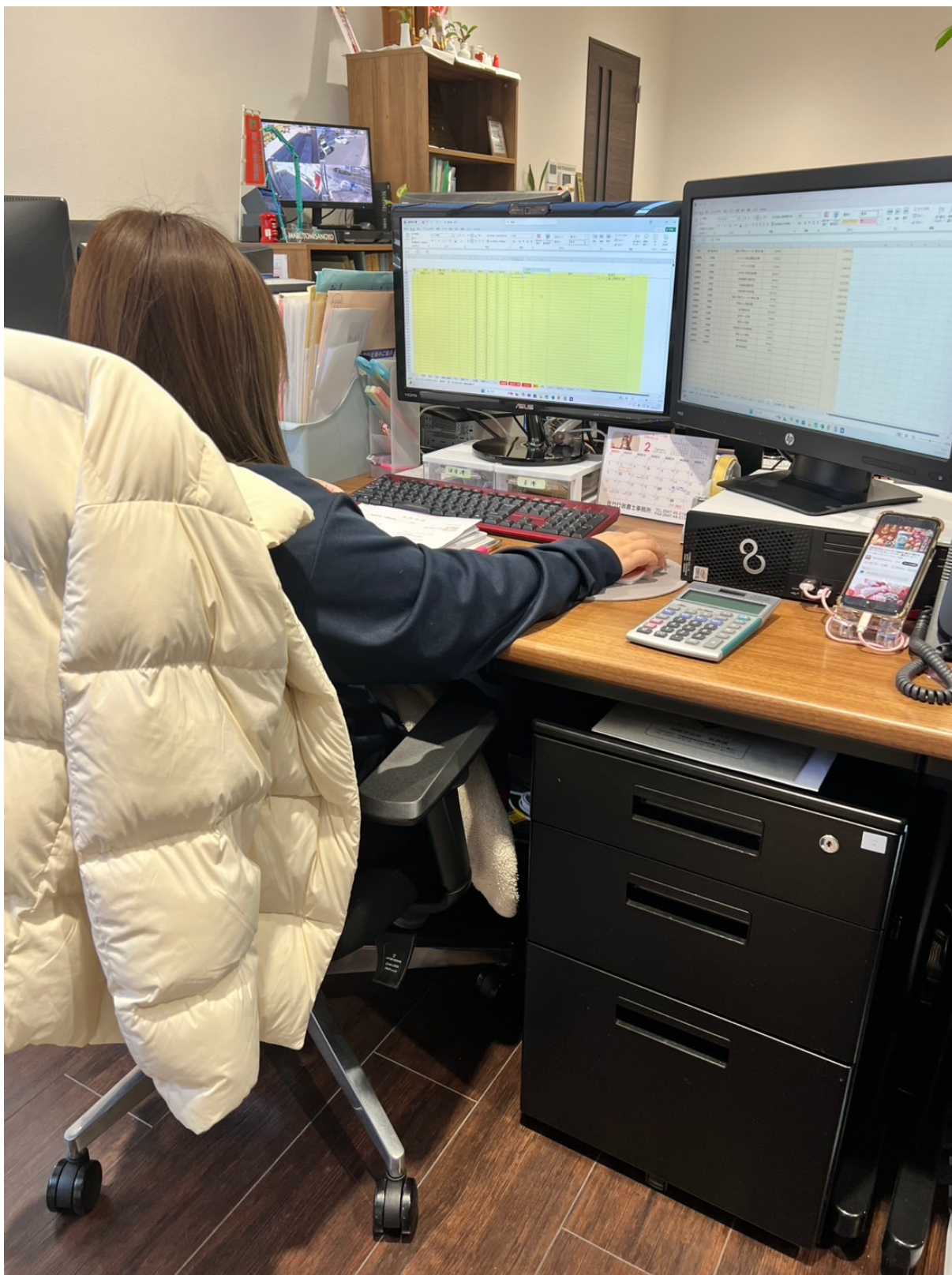
「こんなに便利なものなのか」と、衝撃を受けました。見積書の作成効率が向上したこともそうですが、その内容を全社でリアルタイムに共有できることがいいですね。

また、以前は Excel で作成した見積書のファイルがちゃんと整理できておらず、1 件のお客さまだけでも何百件という見積書があることもあり、後から探すのに大変時間がかかっていました。「解体くん」の場合は、現場名や年月などの情報で簡単に検索ができるため、大幅な時間短縮になっています。

亜友様



経理担当者の私に聞かなくても、「解体くん」を見れば誰も見積金額がわかりますし、齟齬があればすぐに修正もできるため、かなり業務がスムーズになったと思います。それに、以前は請求書をチェックした後、現場集計という Excel のシートを別に作成して、各工事の収支を見ていました。しかし「解体くん」ではすべての情報が集約されているため、その手間を掛けなくてもわかります。そして、スマートフォンで現場からもアプリにアクセスすることも便利です。まだ全社への浸透はこれからですが、将来的に良くなっていく兆しが見えています。



着実に成果を感じていらっしゃるのですね。
今回の DX 伴走支援を受けた感想をお聞かせください。



DX アクセラレーター

富吉社長



まだ私たちの DX は始まったばかりですが、業務効率化や属人化の解消など既に大きな成果を感じているので、もっと早くお願いすればよかったと思っています。

ただ、やっぱりやってみると慣れるまでは時間がかかります。当初は「みんな早く使い方をおぼえなさい」と社員を急かしてしまっていたのですが、実際にやってみて大変さを痛感したので、今では「ぼちぼちやろう」と伝えています。

亜友様



DX 化は丸富産業にとって初めての試みで、決してスムーズにはいきませんでした。DX の専門家に伴走していただいたおかげで、着実に前進することができました。

複雑に見えることも、専門家の視点で的確に状況を捉え、課題をシンプルに整理していただきました。そして、「いつまでにこれを進めましょう」と、具体的なアクションと期日を提示してくださったため、非常に取り組みやすかったです。

3. 会社の将来構想

今後、DX をどのように進めていく予定でしょうか



DX アクセラレーター

富吉社長



見積書からスタートして、工事スケジュール、発注書、日報、請求書、帳簿というのが一連の流れです。まずは上層部が見積書や工事スケジュールを使えるようになってから、次に社員に日報を入力してもらうようにしたいと考えています。そして、春頃には今までの Excel 管理をやめて、「解体くん」に完全移行することを目標に掲げています。

亜友様



「解体くん」を全社に浸透させてからになりますが、将来的には他の DX ツールも検討していきたいです。私たちが知らないだけで、まだまだ便利なものがたくさんあるはずですから、情報収集していきたいですね。



最後に、DX 伴走支援事業に参加を検討している企業にメッセージをお願いします。



DX アクセラレーター

富吉社長



今、どの会社も人材不足で困っています。DX は、そうした課題解決に寄与できる方法だと思います。私自身、はじめは DX のことはまったく考えていませんでした。いざ取り組んでみると、業務効率化や人件費の最適化など、いいことがたくさんあると感じています。特に、経理や事務は会社の底力で、DX 化を含めて力を入れるべきところです。以前は妹に頼りっきりで、その底力にあまり注目していませんでしたが、今回の DX 伴走支援事業によって実感することができました。人材不足が深刻化するなかでも、会社の土台をしっかりと整えていきたい方には、ぜひお勧めしたいです。

足踏みしていた DX が、本事業によって動きだしたことを嬉しく思っています。本日はありがとうございました！



DX アクセラレーター